

令和4年3月2日

保護者の皆様

仙台市立長町小学校
校長 浅野 裕一

令和3年度 協働型学校評価の自己評価結果について

晩冬の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本校では、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら感染防止を徹底した上で教育活動を行って参りました。今年度は感染者の急激な拡大により2月の授業参観・懇談会等、やむを得ず保護者の皆様に参観していただくことを取りやめた行事もありましたが、修学旅行や運動会、校外学習といった行事や授業参観など、分散開催による3密の回避や換気の徹底、日々の検温、マスクの着用等を行いながら実施することができました。保護者の皆様、地域の皆様の深いご理解と温かいご支援によりまして、活動内容を広げた教育活動ができましたことに深く感謝申し上げます。

ご多用の中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。1学期、2学期に行った保護者、児童、教職員のアンケート結果をまとめました。結果を真摯に受け止め、令和4年度の教育活動に生かしていきたいと思っております。

1 今年度の協働型学校評価の重点目標

＜学校・家庭・地域 三者協働で育てていく望ましい子どもの姿＞

「進んで自分の役割を果たす子ども」
「ていねいな言葉づかいのできる子ども」



家庭

- ・家庭での役割を意識し、家族のために働ける子供
- ・家庭でも丁寧な言葉使い、あいさつを心掛ける
「おはよう」、「ありがとう」、「ただいま」、「おやすみ」

地域

- ・地域の行事に参加し、進んで役割を果たす子供
- ・ありがとうの気持ちをこめて、地域の方に進んであいさつができる子供

学校

【低学年】

- ・決められた仕事に丁寧に取り組む子供
- ・はっきりとであいさつができる子供
- ・友達を「〇〇さん」と呼び合う

【中学年】

- ・係や当番に責任をもって取り組む子供
- ・明るい声であいさつができる子供
- ・相手に思いやりのある言葉づかいをする

【高学年】

- ・自らの役割を進んで果たし工夫して取り組む子供
- ・お互いに進んであいさつができる子供
- ・場に応じた言葉づかいができる子供

2 協働型学校評価に関する評価カードによる調査結果について

【家庭における努力目標について】

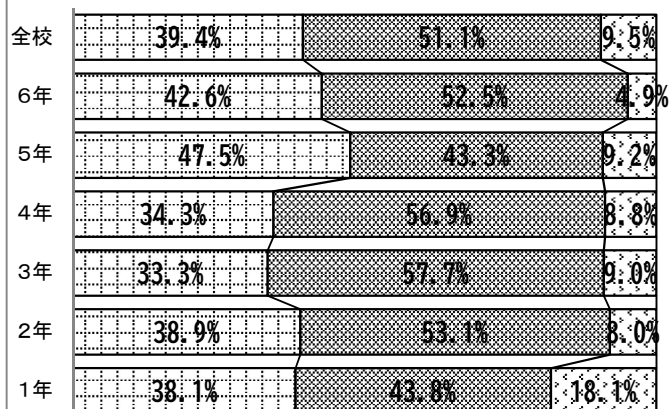
- ・家庭での役割を意識し、家族の一員として自分のできる仕事に毎日取り組むよう習慣付ける。
- ・家庭でも時や場所、状況に合わせた丁寧な言葉づかいを心掛ける。
- ・挨拶を進んで行わせ、周りの人に感謝の気持ちを持って生活させる。

1-A 進んで自分の役割を果たす子ども

☆家庭で相談して決めた自分の仕事を、毎日あるいは定期的に責任を持って行う。【家庭での様子】

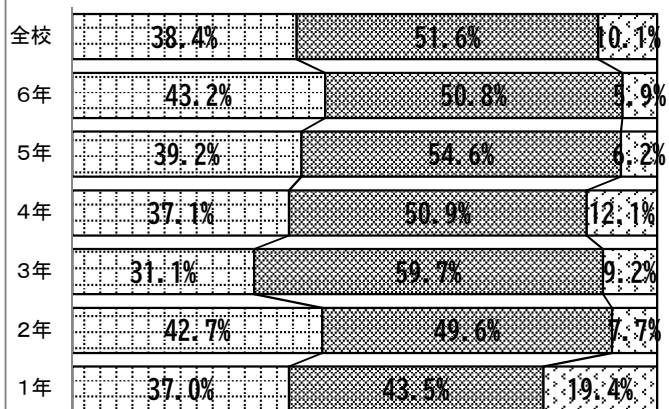
児童1学期 【グラフ1】

■できた ■だいたいできた ■できなかった



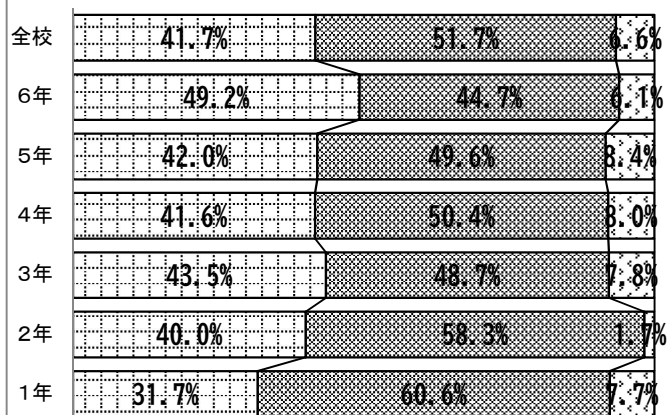
児童2学期 【グラフ2】

■できた ■だいたいできた ■できなかった



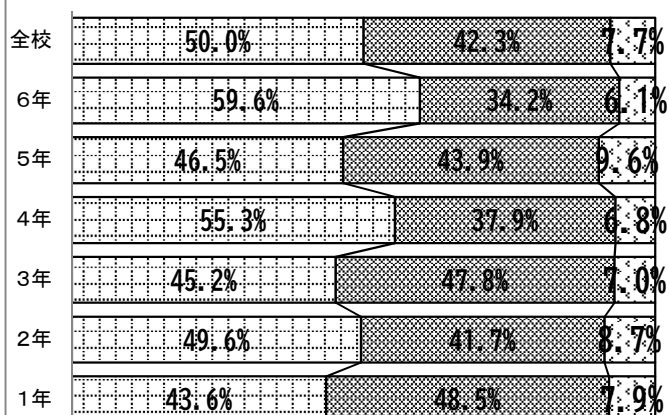
保護者1学期 【グラフ3】

■できた ■だいたいできた ■できなかった



保護者2学期 【グラフ4】

■できた ■だいたいできた ■できなかった

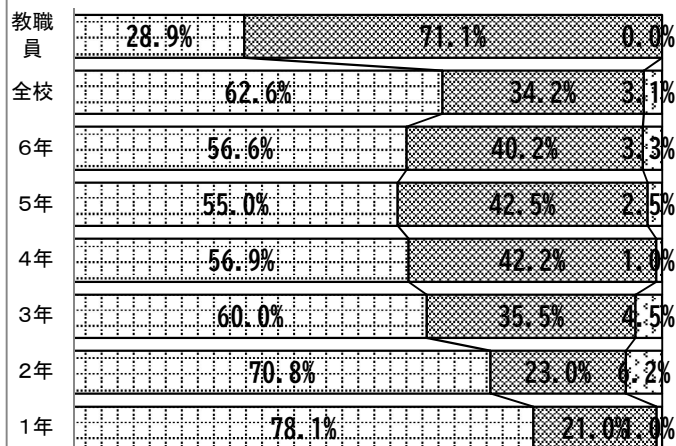


- 児童も保護者も全校で見ると年間を通して約90%が肯定的な評価をしています。保護者は2学期において「できた」が約50%と伸びており、お子さんに家庭での役割を意識させた成果が現れていることがうかがえます。また、児童も家族の一員として自分のできる仕事に取り組んでいることがうかがえます。

☆係や当番の仕事を，責任を持って行う。【学校での様子】

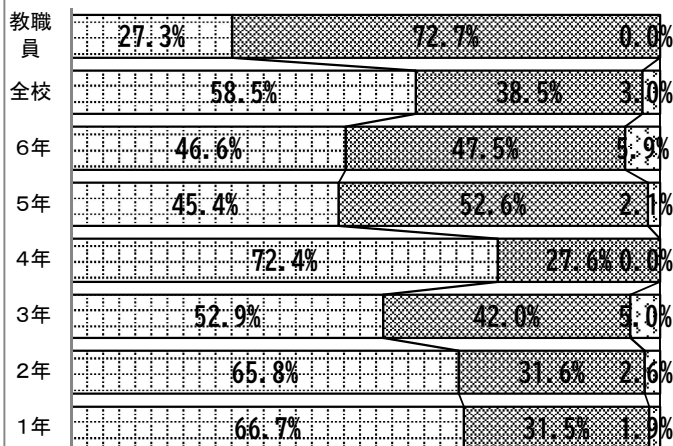
児童・教職員1学期【グラフ5】

■できた ■だいたいできた □できなかった



児童・教職員2学期【グラフ6】

■できた ■だいたいできた □できなかった



保護者も児童も肯定的な意見が多かったことから，各家庭で，自分の役割を認識させ，継続して取り組めるように声を掛けたり，励ましたりしていることがうかがわれます。

学校生活においても，児童，教職員とも「できた」「だいたいできた」が90%を大きく超えており，自分の役割を意識して学級や委員会等の仕事に取り組んでいることがうかがえます。児童の「できた」の割合は，4年生は大きく伸びていますが他の学年はやや減っており，自分の役割を継続して取り組ませることにおいて課題が見られます。教職員は1学期同様30%弱になっており，「継続して取り組む」ことに対して，更に伸ばしていきたいと考えています。

保護者からは，「手伝う内容をはっきりと決めたことで家族の中での自分の役割が明確となり，進んで行おうとする意識につながりました。」という意見を多数いただきましたが，「声がけがまだ必要であり，自らするまでは至っていません。」という意見も見られました。

教職員は，一人一人の役割を意識させる取組を行い，熱心に取り組んでいる児童を皆の前で褒めて全体のやる気を喚起させるように努めています。

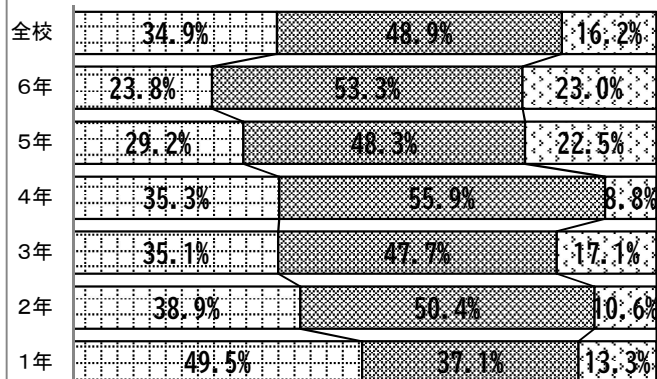
学校では，今後も学級での係や当番活動，所属する委員会，たてわり活動などで自分の役割を意識させ，責任を持ち，進んで物事に取り組めるように働きかけて行くとともに，取り組んだ過程や結果について認め，励ましていこうと考えています。

2 ていねいな言葉づかいのできる子ども

☆丁寧な言葉づかいを心掛ける。(時や場所，状況に応じた言葉づかい)【家庭での様子】

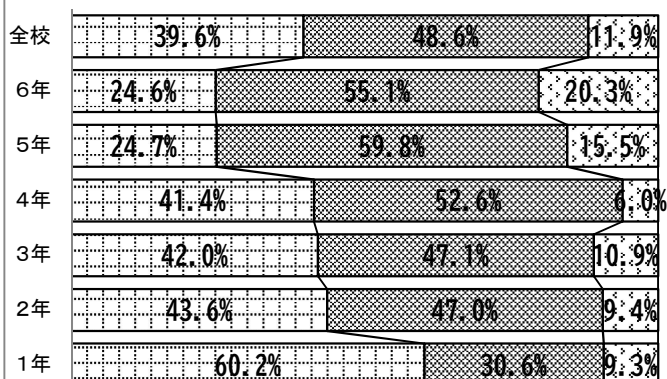
児童1学期【グラフ7】

■できた ■だいたいできた □できなかった



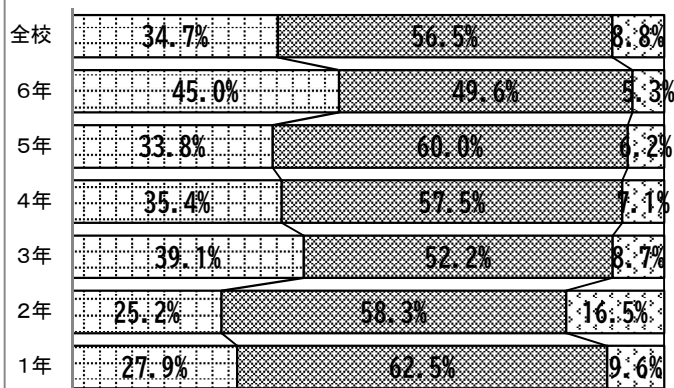
児童2学期【グラフ8】

■できた ■だいたいできた □できなかった



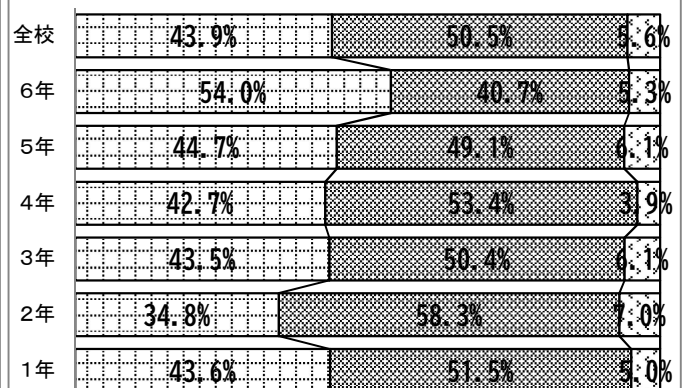
保護者1学期 【グラフ9】

□ できた ■ だいたいできた □ できなかった



保護者2学期 【グラフ10】

□ できた ■ だいたいできた □ できなかった



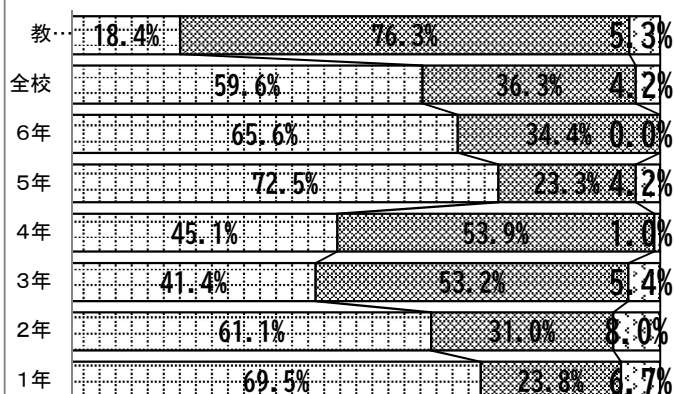
○全校で見ると保護者の「できた」「だいたいできた」の肯定的評価が94%以上あり、どの学年も「できた」の割合が伸びていることが分かります。毎日顔を合わせ、親しみ合っている家族間では、丁寧な言葉遣いは崩れがちなものですが、「丁寧な言葉づかい」についてご家庭で継続的に声掛けしていただいた成果であると思います。

また、全校で見ると児童の「できた」「だいたいできた」の肯定的評価が約90%となっており、1学期に比べ意識が向上していることが分かります。高学年では「できなかった」の割合が、5年生が約16% 6年生が約20%であり、依然として丁寧な言葉遣いについて課題意識を持っていることが分かります。しかし、1学期よりはどちらの学年もその割合が減少しています。

☆相手に思いやりのある言葉遣いをする。【学校での様子】

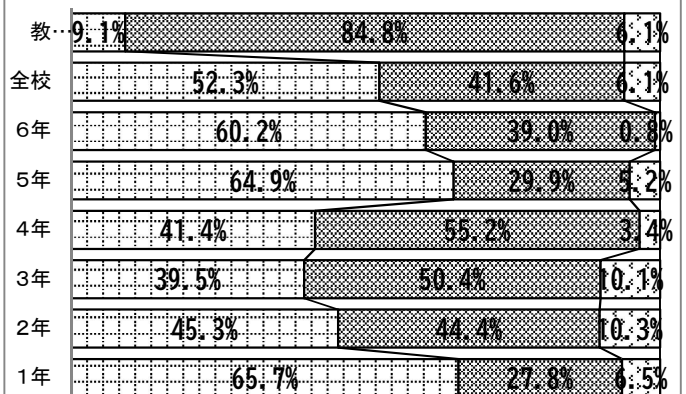
児童・教職員1学期 【グラフ11】

□ できた ■ だいたいできた □ できなかった



児童・教職員2学期 【グラフ12】

□ できた ■ だいたいできた □ できなかった



児童、保護、学校とも「丁寧な言葉遣い」について肯定的な評価をしている割合が高く、三者協働で取り組んできたことが表れているといえます。

保護者からは、「相手や状況に応じた言葉づかいができるようになってきた。」「丁寧な言葉使いが大切という意識を持っている事が一番の成長です。」と、成長を感じている意見を多くいただきました。一方で「ゲーム中の言葉づかいをもう少し見直してもらいたい。」という意見も見られました。

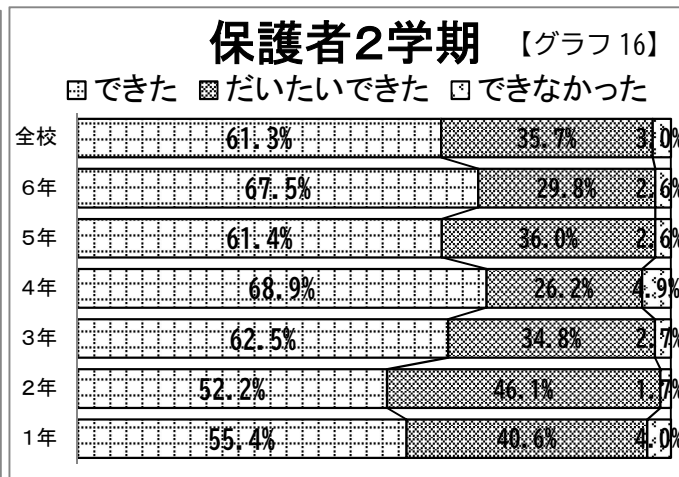
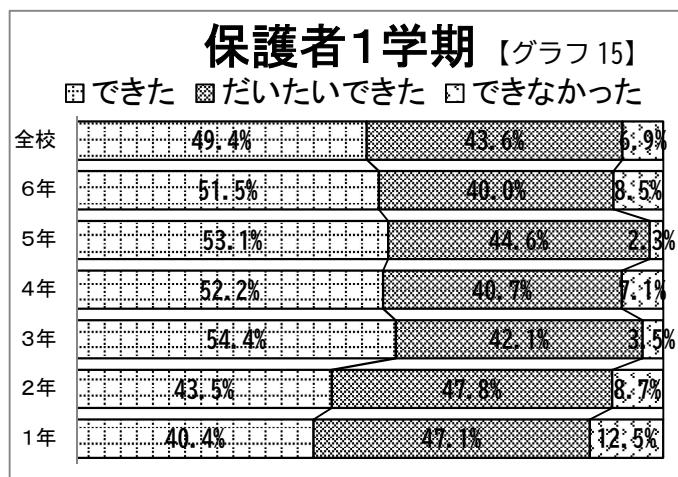
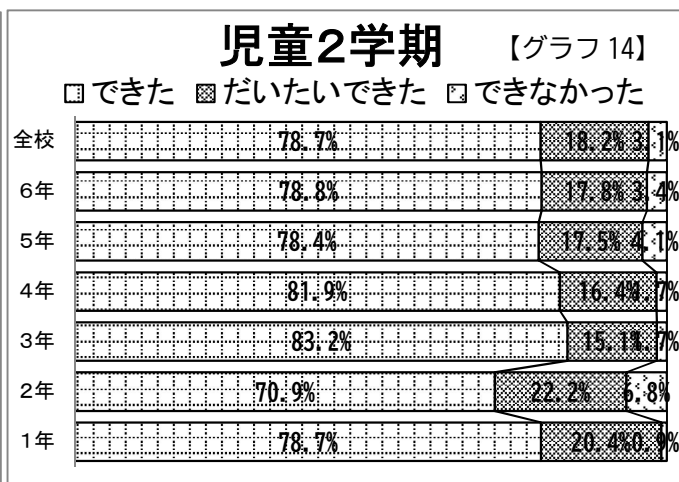
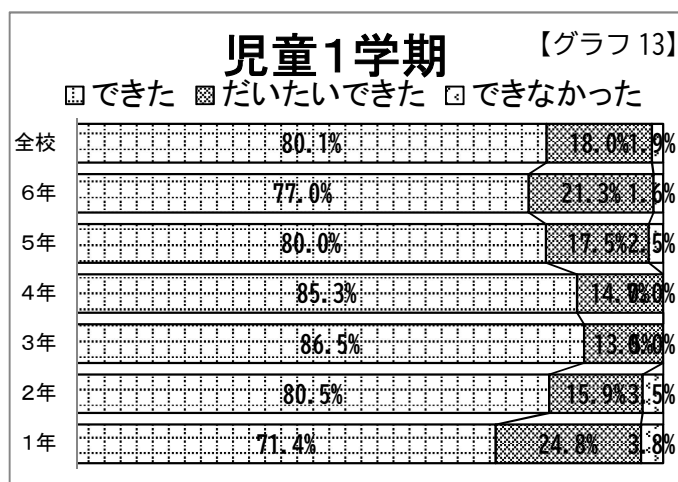
学校での丁寧な言葉遣いについては、年間を通して児童の「できた」「だいたいできた」の肯定的評価が全校で90%を大きく超えています。学校で丁寧な言葉遣いに気をつけていることがうかがえます。2学期は、「できた」と高く肯定している学年が多く見られますが、2年生～4年生は、他の学年に比べて自己

評価がやや低くなっています。親離れが始まり、友達を中心にした生活となる中学年の発達段階の特徴が表れているとも言えます。

一方、2学期、教職員の「できた」は10%未満となっています。学校では、良好な人間関係を築く上でも、丁寧だけではなく相手の気持ちを考えたり、相手に感謝を伝えたりする言葉遣いができる子供をこれからも育てていきたいと考えています。保護者のご意見の中に、「『ていねいな言葉づかい』ができることは良い事、格好良い事だと子供自信が思えるような言葉づかいを周囲がしていかなければいけないと考えます。」というものが見られました。教師自身が模範となって丁寧な言葉遣いをし、児童が場に合った言葉遣いができている時には進んで褒めるようにして行くことが大切であると考えます。

3 家族や地域の方へ

☆家族や地域の方に進んで挨拶をする。感謝の気持ちを持って生活する。【家庭での様子】



○年間を通して保護者の「できた」と「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が非常に高い項目となっています。2学期は、どの学年も「できた」の評価が大きく伸びており、多くの保護者が、挨拶がよくできていると感じていることがうかがえます。

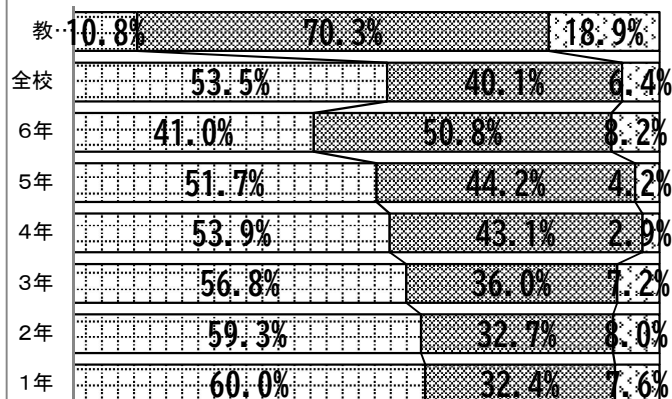
○児童も年間を通して「できた」と「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が100%近くとなっており、肯定的な割合が非常に高くなっています。学年別に見ても全ての学年で「できた」が70%を超えており、家庭や地域での挨拶への意識を強く持ち、積極的に取り組んでいることがうかがえます。

☆お互いに進んで挨拶をする。【学校での様子】

児童・教職員1学期

【グラフ 17】

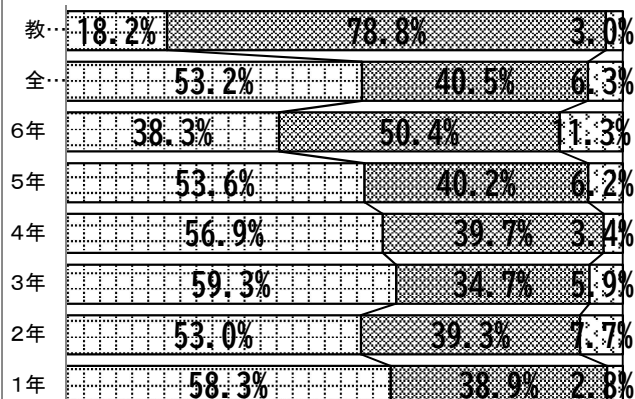
□できた ■だいたいできた □できなかった



児童・教職員2学期

【グラフ 18】

□できた ■だいたいできた □できなかった



保護者も児童も肯定的な意見が多かったことから、各家庭で、挨拶への意識を高く持ち、しっかり挨拶するように声を掛けたり、励ましたりしていることがうかがわれます。

保護者からは、「周りの人への挨拶はできていたが、どんどん挨拶の範囲を広げていければ良いと思う。」「前期では、地域の方に、恥ずかしそうに挨拶をしていましたが、後期になり、大きな声で出来るようになりました。これからも頑張ってもらいたいです。」という意見をいただきました。一方で、「街頭指導の方や地域の方にもっと大きな声で挨拶が出来ると良いと思います。」という意見もいただいています。

教職員は、2学期では「できた」「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が1学期より増えて、約97%になりました。しかし「できた」は18%未満に留まっています。個人差が大きく、もっと全体的に挨拶を活発にしていくことや相手に感謝の気持ちを持ち、目を合わせて気持ちのよい挨拶をすることについてはもう一歩と捉えています。

学校では、挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、気持ちのよい挨拶は相手の心を非常に和ませる大切なものであると考えています。相手意識を持った挨拶が大切であることを理解させるとともに、朝、帰りの挨拶、授業の始まりと終わりにきちんと挨拶する習慣を身に付けるように指導しています。また、今後も自ら進んで明るく挨拶をするなど担任が手本をなるように心掛け、元気な挨拶や笑顔の挨拶ができている児童を褒めて伸ばしていきたいと考えています。

協働型学校評価へのご意見

三者協働の取組について今後も継続すべきだという意見を多くいただきました。今後の教育活動に生かしていきたいと思ひます。以下にその一部を紹介いたします。

- ・今後も家族や地域の一員として、目標を立てた活動を続けて欲しいと思ひます。
- ・成果が出ることはもちろん大切ですが、この取組により、学校でも家庭でも大人と子供が話しあうきっかけとなっていることに意味があると思ひます。
- ・目標は家族や周りの大人が手本を示す必要があるので家庭での努力も必要だと思ひました。
- ・できた、できなかっただけでなく、具体的なエピソード(内容)を知ることができるとより理解が深まると思ひます。
- ・今年度の目標自体知らなかったもので、年度始めにも目標確認のためのメール配信をすると良いと思ひます。
- ・もう少しわかりやすく、短い言葉での設定が良いのではないかと思ひます。
- ・目標を達成したかどうかなかなか評価しにくいです。

教育目標に関するアンケート調査結果について

本校では、教育目標である「心豊かにたくましく、進んで学び、共に高め合う長町の子供」を受け、目指す児童像を設定し、日々の教育活動に取り組んでいます。今年度も下記の3つの項目において、児童と教職員がどの程度達成されていると感じているかをアンケートにより調査しました。保護者の皆様にも、御多用の中12月にアンケートの御協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

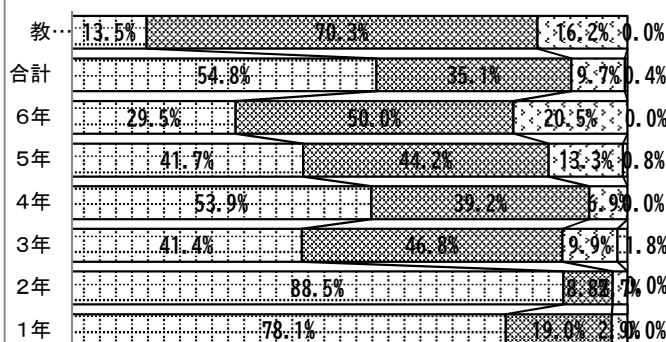
1 思いやりのある子

【低】友達と仲良くできる子 【中】助け合い、協力して活動する子 【高】相手の気持ちや立場を考えて行動する子

児童・教職員1学期

【グラフ19】

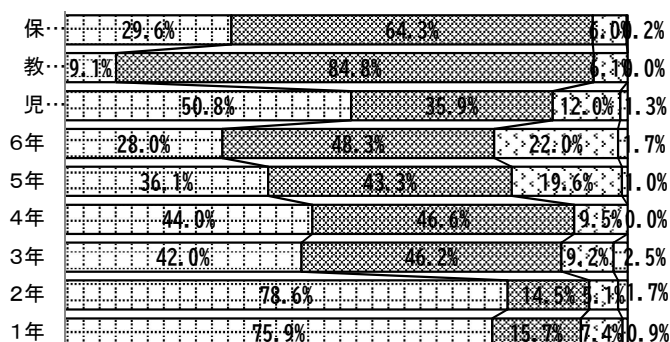
□達成されている ■ほぼ達成されている
□あまり達成されていない □達成されていない



児童・保護者・教職員2学期

【グラフ20】

□達成されている ■ほぼ達成されている
□あまり達成されていない □達成されていない



児童は「できた（達成されている）」「だいたいできた（だいたい達成できている）」の回答が1学期、2学期とも全校で90%近くとなっており、昨年度より大きく向上しています。保護者、教職員も肯定的な評価が90%以上となっています。

今年度は、感染防止策を徹底しながら、学校行事やたてわり活動等、様々な活動をやり方を工夫して取り組んできました。子供たち同士のコミュニケーションを豊かにすることができ、そのような中で互いを認め合ったり、思いやったりする機会が増えてきた成果であると考えています。

教職員は、道徳や学級活動の時間で友達とはなにかを話し合ったり、思いやりや助け合いが出来たことを皆で称賛したりする活動を取り入れています。また、気になる言動が見られた時は見逃さず、どうしてそうしたのか一緒に考えたり、指導したりしています。

学校では、今後も感染症対策を十分に行いながら、子供たちがともに頑張る活動を増やしていきたいと考えています。道徳や学級活動、学校行事、たてわり活動などを通して、相手の個性を尊重し、互いのよさを認め合い、思いやりの気持ちを持ってかわる子供たちを育てることを目指して、日々取り組んでいきたいと考えています。

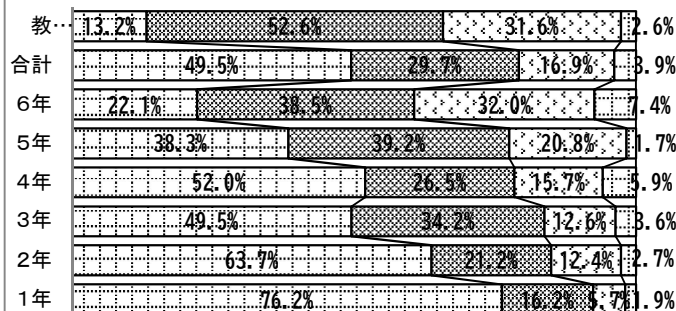
2 たくましい子

【低】外で元気に遊ぶ子 【中】進んで体をきたえ、元気に運動する子 【高】進んで体をきたえ、ねばり強く頑張る子

児童・教職員1学期

【グラフ21】

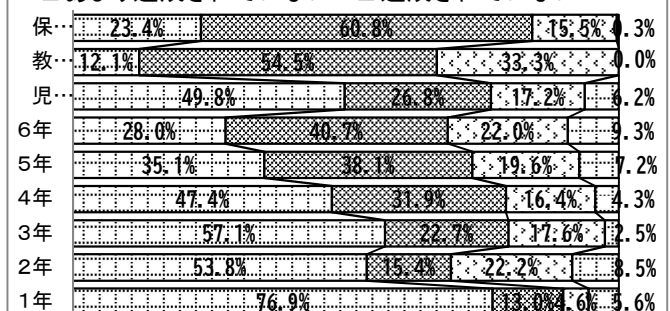
□達成されている ■ほぼ達成されている
□あまり達成されていない □達成されていない



児童・保護者・教職員2学期

【グラフ22】

□達成されている ■ほぼ達成されている
□あまり達成されていない □達成されていない



児童は「できた（達成されている）」「だいたいできた（だいたい達成できている）」の回答が、年間を通して全校で80%近くとなっており、昨年度より向上しています。保護者も80%以上の方が肯定的な評価をしています。今年度は、感染防止策を徹底しながら、休み時間や放課後等の遊びの場を開放し、体育でも、運動会の練習や授業の中で運動量の確保に努めました。

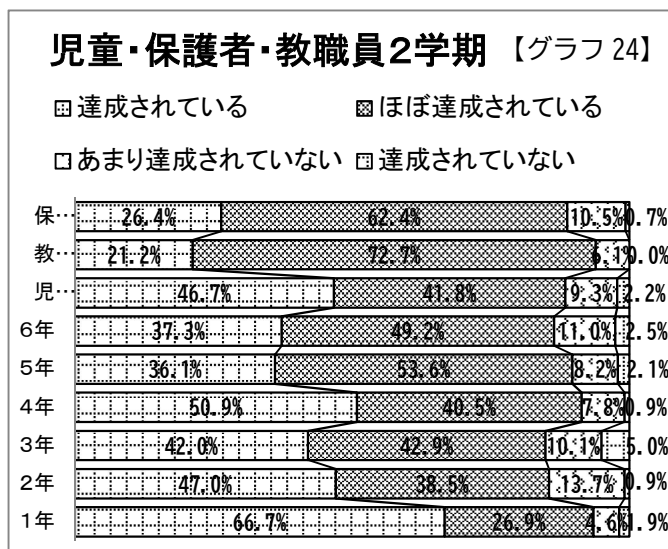
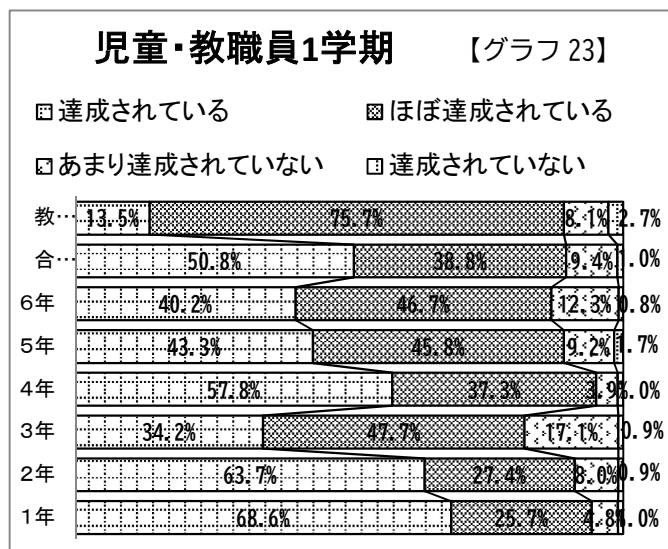
一方で、児童の約4分の1、教職員の約3分の1は「あまりできなかった（あまり達成されていない）」「できなかった（達成されていない）」と評価しています。感染症の収束が見通せない中、学年全体が集まる活動や体が触れ合うような運動は、控えざるを得ませんでした。

教職員は、体育で、一人一人の運動時間の確保を意識して指導内容を考えたり、休み時間は積極的に外に出て体を動かして遊ぶように声がけしたりして、運動量の確保に努めました。

学校では、今後も感染防止策を徹底しながら、授業での運動量の確保や、質を高めること、運動の楽しさを味わえる授業づくりを行っていきたいと考えています。また、状況に応じて、活動のあり方を見直していきたいと考えています。

3 共に学び合う子

【低】よく見て、よく聞いて学習する子 【中】話をよく聞き、よく考え学習する子 【高】共に学び、意見を出し合いながら高め合う子



年間を通して、全校では児童の約90%が「できた」「だいたいできた」と肯定的な評価をしており、昨年度より大きく向上しています。また、保護者、教職員も約90%が肯定的な回答をしています。

授業中の教室を見て回ると、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでおり、「話をよく聞き、よく考えて」学習しています。

教職員は、子供が学ぶ意欲を持続できるような学習内容を用意したり、子供同士が考えを共有できる機会を設けたりしています。グループやペアでの話し合いの場を増やして、いろいろな考えに触れさせる機会を意識的に設けています。

今年も、マスクを着用し十分な換気を行い、正面同士の対面を避けて互いの距離をとることを行った上で、お互いに意見を出し合う対話的な学習をする機会を増やしてきています。ICT機器を使って交流を図る試みも徐々に行なってきています。

今後も、感染防止策を徹底しながら、互いの意見を出し合い、認め合い、学び会える工夫した授業づくりを検討し、子供たち自身が「共に学び合う」ことを実感できるようにしていきたいと考えています。